法政大学 第一高等学校同窓会報

本会は母校の発展を願う卒業生が相互の親睦をはかり連絡を密にし、互助の実をあげることを目的とする。（条2第約規）

発行所　法政大学第一高等学校同窓会　電話0422～22～8131㈹

発行人　岩村元雄　東京都武蔵野市吉祥寺東町3～5～7

（題字は馬場校長筆）　昭和55年3月15日（土）　第5号

卒業おめでとう

会長　倉沢豊丸

卒業式を迎える生徒諸君ご卒業おめでとう。

思い出多い高校生活三ヶ年間をめでたく終了し、いよいよ生涯の方針に進む時が来ました。志望する道に大いに頑張って下さい。

三年間過した母校への思い出、学友との友情はつきぬものと思います。併し「会者常離」（会うものは常に離れる）の世の中です。又移り変る世相です。

思い出ばかり耽って、現在を見失い、未来に迷った人生は生涯苦悩の連続であり、落伍者の道です。

「青年よ大志を抱け」とは古い諺ですが真実の教訓です。

諸君はこの思い出多い母校―恩師学友そして大恩を受けたご両親に報ゆる為にも本日の卒業式を大きく未来に発展する人生への跳躍台として下さい。

我同窓会は諸君の三ヶ年間過した母校の発展と同窓諸氏の社会活動、親睦の輪を増強し、幸福な社会生活に役立つよう会員相互、母校を中心として運営しています。この目的達成の為、現在母校の現況報告、会員の近況そして自覚を深める為に本誌「法政大学第一高等学校同窓会報」を年間数回に亘り発行し、会員諸氏に配布、又暫らく発行しなかった「同窓会々員名簿」を名簿編集委員プロヂェクトチームで各学年代表委員を通じ作成配布しています。そして更に本会は去る昭和54年6月24日母校体育館で52年6月第七回総会開催に引続き、八回総会を東京都渋谷東急会館ゴールデンホールに於て開催し、本会名誉会長現一中高校長　馬場昌平先生、前一中高校長　安光　功先生始め、我母校創立以来永年教鞭をとり我々同窓会員の「心の依り処」として慕われ、今日九十余才のご高齢でお元気におられる土居音三郎先生びに現旧教職員諸先生をお迎えし、会員五百名以上の協力のもと盛会裡に総会を開催致しました。次期総会は昭和56年6月を目標に総会を準備しています。今日卒業する生徒諸君もこれからは我同窓会員として次期総会には誘い合せ出席し、母校発展の為又同窓相互の活動親睦の為ご協力をお願い致します。我々会員は常に、

「愛校心と友情を行動で」

との合い言葉で母校の発展、同窓会員の多幸を祈念しています。卒業生諸君の今後のご活躍と健勝を念じ、あわせご卒業を祝い、同窓会入会歓迎の言葉と致します。

名誉会長　馬場昌平

井上靖原作の「天平の甍」が映画化され、上映されています。この物語は、唐招提寺の開祖、唐僧鑒真の事蹟にもとづいて、日本から渡唐した留学僧が鑒真の日本請来をめぐって展開するさまざまな運命を描いています。

当時の日本は、隣国中国から政治、経済、文化のあらゆる面を摂取するに急でした。そのために度々遣唐使の一団が派遣されましたが、しかし、海上の渡航は容易ならぬ危険を伴い、無事に帰朝できるのはむしろ僥倖でした。

日本の留学僧、栄叡、普照らに懇望されて渡日を決意した戒律の第一人者鑒真はすでに五十五才に達していました。そして、最初の渡航の企ては暴風雨に遭って挫折、その後何度も渡航しようとしますが、その度に、また難破して日南まで流されたり、中国の官憲に阻止されたり、さまざまな障害や困難に遇い、数度の渡航失敗後、ようやく六十六才の老齢、盲目の身で渡日を果します。この間十年余の年月を要しています。

鑒真は当時、中国で一代の名僧として道俗の尊崇を集めていました。法のためとはいえ、何もそんなにまで苦労して、生命をかけて日本へ渡る心要があったのでしょうか。普通ならとっくに諦めているでしょう。私は鑒真の事蹟を偲ぶ毎に、人間の不屈の意志に不思議な衝撃を覚えます。

副会長　中村雅明

ご卒業おめでとうございます。

三年間の勉学の成果としての卒業証書を手に晴れて本校を巣だたれるわけですが、諸君はこの三年間に何を身につけられたでしょうか、知識でしょうか、体力でしょうか、いや、それ以上に大切なものを身に着けられたのではないかと思います。高校時代には本当の友人が出来るところであり、一生の心の友が出来る時代なのです。これが何よりの収穫ではないかと私は思います。どうかこの友情をいつまでも大切にしていただきたい。諸君の中には、すぐ社会に出て就職される方、あるいは進学される方、それぞれ進む道は異なるかも知れませんが、これからは毎日顔を合わせることはできなくなります。

しかし心の中では毎日顔を合せてください。事あるごとに友達を思い出してください。折があれば実際に顔を合せてお互の境遇について語り合ってください。何を話しても何の気兼ねもない親友との語らい、そこに心の安らぎを見出していただきたい、これが長い人生を送る上で最大の助けとなることを、ここに申しあげておきます。

これから会員になられる諸君に、少しでも同窓会を理解していただくために簡単に同窓会の内容をご紹介しておきます。前段に申しあげたその友情を永遠に保持するためにあるものと私は信じており、その目的を達成するため同窓会は三つの大きな事業を行なっています。第一、組織の確立（名簿の作成）第二、情報の交換（会報の発行）第

（二面下段に続く）

会長就任に寄せて

倉沢豊丸

去る昭和54年6月24日第八回法政一高同窓会総会が総会準備委員長現同窓会副会長、野村光一氏始め各準備委員各位の努力に依り、東京渋谷東急文化会館内ゴールデンホールに於て会員協力者五百余名並びに母校ブラスバンド協力参加のもと盛会裡に開催されました。

その席上総会に於ては諸議事進行決議、更に昭和54年度、55年度役員改選が行れ、再び、この年度の会長に不肖私が推挙され就任することになりました。

いよいよ責任の重大さを痛感し、就任した以上は前期会長の任期をふまえて、本会発展の役に立つ基礎を固め、次期総会には有望な会長に引継ぎ、本会が常に新鮮で活気に満ちた同窓会であることを切望するものです。

思えば、本会の推移を見ます時今日の同窓会、母校現校長　馬場先生始め諸先生方の同窓会への深い理解と協力、そして又会員諸氏の協力に依って飛躍的な運営を遂行させて頂いていますことは、その任に当る私として敬意と感謝の外ありません。この切角発展向上しつゝある同窓会を更に前進し期待に報いたいと存じます。

これが実現には今期開催された総会決議事項の実施、そして特に会員名簿の充実整備、会員への配布、並びに昭和54年度より、会員の自覚を高め、母校愛、友情を深め同窓会の健全な発展を願う目的で全会員に「年度会費」の納入を完全実施に努力してゆきたいと存じます。

公私御多用の処、恐縮とは存じますが皆さんの御理解と御協力をお願い致す次第です。私のことで誌上で申すことは僭越でお許しを頂きますが、たまたま、昭和54年度法政大学後援会々長にも先般の総会にて推挙をされ、就任することになりました。

何分にも非力な身、皆さんの強力な御支援がなければこの大任を完遂することは出来ません。

互いに青春期を過した思い出多い母校、同窓諸氏の為「愛校心と友情を行動で」との我同窓会のモットーで今后共皆さんの絶大なる御支援御協力の程をお願い申し上る次第です。

新副会長挨拶

大木興

五四年度同窓会総会も予想以上に盛大に開催され、一方暫らくぶりに完成の目途のつきました名簿編纂も担当委員諸兄の御努力により着々として進行致して居ります。当会の基盤も一段と固りつゝありますことは同窓会の一員として諸兄とともに喜びをわかちたいのですが、顧りみますと会員一万二千人に対して会報の発行が三千部しか出来ません。名簿にしても発行部数、千部が限度と云う現状であります。会員諸兄すべてに御満足頂けるには道はまだ遥かの感が深いのであります。幸今回の総会で既卒業生からも年会費納入の御賛同を得て六月二十四日の総会日現在、本年度会費として二百五十八名分が納入されて居ります。宿題の既卒業生を含む全会員の年会費納入が開始されました。原野に一筋の道が拓かれたところです。然し同窓会の事業計画を遂行するにはまだ緒についたばかり、まさにこれからというところです。校長先生はじめ学校当局の温い御支援と御期待に答え、更に同窓会員諸兄の為頑張らなければならないのは本当にこれからの運営如何にかかって　と思います。折角推挙されたからには少しでも効果のある様努力したいと心に決めるものであります。同窓会員諸兄には一層クラス会時に於ける年会費納入の御協力を賜りたく深くお願いする次第であります。

卒業を祝して

副会長　野村光一

皆さんおめでとうございます。皆さんは大きな希望を胸に抱いていよいよ広い世界に巣立っていかれる喜びが満ち溢れているのに心からのお祝を申しあげずにはいられません。

皆さんはただちに社会に出て働かれる方もありましょうし、また大学に進む方もありましょう。いづれにしても皆さんの前途は本当に洋々としています。望みに満ちています。どうか自分の力一杯をつくして、それぞれの道を切り開いて進んで下さい。

今日の皆さんの喜びと希望は、そのまま、私共の喜びであり希望であります。それは皆さんが、今日、法政一高同窓会の一員となり、私達の仲間となるからであります。私達は新しい家族、兄弟を得たような喜びに心がおどるのであります。今、皆さんを法政一高同窓会の会員として迎えるにあたり同窓会のことについて述べてみたいと思います。

第一に同窓会はどうゆうものであるかということです。

啄木は、「ふるさとの山に向いて言ふことなし、故郷の山はありがたきかな」と詠んで故郷をなつかしんでおります。この心は母校を愛する心と相通ずるものがあると思います。今日の皆さんも、時がたつにつれて、母校が懐しくなることと思います。広い体育館。校庭の樹木。プール。鉄棒。すべて思い出深いものばかり。同級生と元気ハツラツ、運動に文化祭に、エネルギーをついやした頃のことが懐しく、胸一杯に拡がってくることでありましょう。

社会に出ても、自分達の母校、同窓生の誼みが、どんなに深い縁のものであるか、お互に未知の間柄でも、この母校の文化祭のこと、体育祭のことを話しあっただけで、百年の知己を得ることも容易でありましょう。この意味におきまして、社会の荒波を乗り越えていく際に、お互に助けあい、励ましあっていく組織的な集りとしての同窓会を大いに活用し、利用していくこと、これが同窓会であろうと思います。

第二に法政一高の同窓会の組織と運営はどのようになっているのであろうかという　す。

現在の同窓会々員は約一万二千名。組織の基盤は、各クラスの「クラス会」であります。「各クラス」から「クラス委員」が互選され、またこの「クラス委員」の互選により、学年代表委員が選出されます。

役員は、会長、副会長、総務委員長、財務委員長、広報委員長、名簿編集委員長、各副委員長がおかれ、二年毎の総会に際しては、総会準備委員長、副委員長が選任されます。

運営は役員会で事業計画を立案検討し、委員会を通じて実施にうつされています。

昭和五十五年度の運営方針は、後掲してありますので、ご参照していただきたく思います。

私共、役員は、会長を頂点として、一致団結して、吾が法政一高同窓会の発展のために、微力ながら努力を重ねてまいる所存でありますので、本日卒業され、新会員となられた皆さんの、同窓会との連携、その運営への積極的なご参加、ご協力をお願いいたしたいと思います。

「母校愛と友情を行動で」のスローガンのもと、同窓会への参加を心からお待ちしております。

（一面下段より）

三、懇親（総会の開催）以上申し上げればおわかりいただけたと思います。

母校と同窓生の絆である同窓会の諸行事に積極的に参加されますことを乞い願い諸君の将来のご発展と、ご健斗を心から祈念いたします。

（名簿編集担当）

54年度事業方針

同窓会の昭和五十四年度事業方針は、母校の発展を願い、卒業生相互の親睦を図り、連絡を密にして、互助の実をあげていくため、次のテーマを軸に推進して行く考えで居ります。

一、同窓会規約並びに細則の改定

イ会費徴収制度の導入

ロ役員、委員の任期

ハ組織の改定、広報委員会設置

ニ字、句の改定

二、同窓会名簿の作成、発刊

三、同窓会々報の発行と充実

四同窓会と母校との連携、交流並びに母校の諸行事に対する協力

五五十四年度収支予算計画について

五十四年度総会開催により規約の改定を図り、会費徴収制度を抜本的に手なおしする考えで居り、この改正によって収支予算の内容が従来と異ってまいりますので、この面を考慮した予算を策定する考えで居ります。

以上の通りでありますが会員各位のご協力を切にお願いする次第でございます。

昭和54年度決算報告書

（54．4　1～54．12．31．中間）

法政大学第一高等学校同窓会

収入の部							
科目 款	科目 項	予算額	4/1～12/31 決算額	1/1～3/31 決算見込額	計	差異	摘要
繰越金		633,399円	633,399円	円	633,399円	0円	
会費		1,318,000	972,000		972,000	346,000	
	入会費	480,000	343,000		343,000	137,000	343名×1,000円
	一般会費	480,000	343,000		343,000	137,000	343名×1,000円
	年会費	258,000	286,000		286,000	△ 28,000	286名×1,000円
	〃	100,000				100,000	
広告費		72,000	19,000		19,000	53,000	
	広告代	72,000	19,000		19,000	53,000	
雑収入		0	140,936		140,936	△ 140,936	
	雑収入入	0	115,379		115,379	△ 115,379	53年卒業生のアルバム代の残金
	利息	0	25,557		25,557	△ 25,557	予金利子
繰入金		833,975	833,975		833,975	0	
	繰入金	833,975	833,975		833,975	0	54年度総会余剰金
合計		2,857,374	2,599,310		2,599,310	258,064	

支出の部							
科目 款	科目 項	予算額	4/1～12/31 決算額	1/1～3/31 決算見込額	計	差異	摘要
経常費		441,900円	389,230円	185,760円	574,990円	△ 133,090円	
	入件費	105,000	84,000	21,000	105,000	0	
	通信費	54,000	29,830	12,960	42,790	11,210	
	印刷費	72,900	53,720	10,900	64,620	8,280	
	会議費	210,000	221,680	140,900	362,580	△ 152,580	
事業費		1,435,600	440,660	649,600	1,090,260	345,340	
	同窓会々報発行費	586,000	257,710	250,000	507,710	78,290	
	名簿編纂関係費	500,000	182,950	150,000	332,950	167,050	
	収支予算編纂費	19,200	0	19,200	19,200	0	
	学校協力費	330,400	0	230,400	230,400	100,000	
慶弔費		30,000	30,300	0	30,300	△ 300	
	慶弔費	30,000	30,300	0	30,300	△ 300	
組織活動費		100,000	0	0	0	100,000	
	組織活動費	100,000	0	0	0	100,000	
小計		2,007,500	860,190	835,360	1,695,550	311,950	
予備費		849,874					
次年度繰越金			1,739,120		903,760	△ 53,886	
合計		2,857,374	2,599,310		2,599,310	258,064	

54年度総会

昭和五十四年度総会は、昭和五十四年六月二十四日（日）午前十時三十分から渋谷の東急ゴールデンホールに七百余名の参加を得て盛大裡に開催されました。

当日は馬場昌平法政一高校長をはじめ、法政大学中村哲総長の代理佐藤康二理事、法政大学校友会楠副会長　安光功前法政一高校長（現法政女子高校長）九十四才で今尚お元気な土居先生。現元教諭のご来賓を迎へ岩村総務委員長の司会により定刻開催　倉沢会長より五十二年の総会以后今般の同窓会開催までの経緯、同窓会の今后の運営など力強い挨拶があり「母校愛と友情を行動で！」をモットーにより一層会員の結果と支援を求められた。

馬場名誉会長挨拶

続いて正木理事から詳細にわたる経過報告があり、事務局万代先生の会計報告、大城会計監査代理佐藤貴志氏より会計監査報告が行なわれた。

議事に入るに当り議長団の選出が行なわれ、山口栄一郎（中4）神林厚秀（高15）安田泰敏（高23）の三氏が選出された。

議事に入り、山田総務副委員長から「同窓会規約の改正について」積田名簿編纂副委員長から「五十四年度事業計画について」大木財務委員長から「役員の選出について」の各提案説明が行われ各々、満場一致で可決承認された。

議事終了に引続いて新会長倉沢豊丸氏（再任）から会員各位の絶大なる支援を求める挨拶があり、新副会長中村雅明（再任）野村光一（再任）斉藤英雄（再任）大木興（新任）四氏の紹介が行なわれた。続いて来賓の祝辞があり、馬場校長より同窓会の皆様が社会の各分野でご活躍され、尚かつこの様に盛大な同窓会を開催される事は学校にとっても大変有難い事だと感謝の意が述べられ、学校の近況と同窓会発展の祝辞が述べられた。佐藤理事、楠副会長からは大学の近況、昭和五十五年に大学創立百周年を迎へるに当り記念事業を計画している事にふれ、大学校友会に優るとも劣らない法政一高同窓会の讃辞のことばが述べられた。安光女子高校長からは二十六年間過した法政一高の思い出にふれ附属校としては長男とも云うべき法政一高同窓会の発展の祝辞が述べられた。ここで九十四才とは思えぬお元気な足どりで土居先生が入場され法政一高同窓会の益々の発展の讃辞が述べられた。

最后に土橋総会準備副委員長の挨拶と元応援団長の神林代表委員の力強いリードで「フレーフレー法政」のエールを交換し第一部総会は無事終了した。

第二部懇親会に移り、野村総会準備委員長から総会が盛大裡に行なわれたことに対し謝辞とお礼の挨拶があり、倉沢会長の音頭で昭和十六年第一期卒業生以来昭和五十四年卒業生に至る約一万二千名の同窓生の中不幸にして他界された同窓生のご冥福を祈念して一分間の黙祷がささげられた。

続いて倉沢会長と馬場校長による鏡開きが行なわれ土井先生の音頭で同窓会発展と会員の健康を祝して乾杯、各クラス久々の再会とあって、先生をかこみながら話も大いにはずみ飲むごとにいかにも同窓会の懇親会らしい風景が会場のあちらこちらに見られた。

尚法政一高吹奏楽部が同窓会の為に応援出演し会場の雰囲気を一層盛り上げた。

54年度総会議事

議長団に山口栄一郎（中4）神林厚秀（高15）安田泰敏（高23）の三氏が選出され議事が進行された。

第一議案

「同窓会規約並びに細則の改定」

山田総務副委員長より提案説明があり左記の通り満場一致で可決承認された。

○改定理由及び内容

同窓会、運営並びに、事業推進実施にあたっては人、物、組織の円滑なる運用が必要であり、その基本となる同窓会規約、並びに細則は常に運営推進に実を与えられる様な内容でなくてはならず、今后更に同窓会の運営の強化を図り益々の発展を図る為に左記の事項について改定を提案致します。

イ　役員、委員の任期

（現行条文）

第四条　本会に次の役員及び委員をおく。名誉会長一名、会長一名、副会長四名、委員若干名、会計監査二名、会計二名、会長、副会長の任期は二年とする。他の役員及び委員の任期は一年とする。但し留任を防げない。

（改定条文）

第四条　本会に次の役員及び委員をおく。名誉会長一名、会長一名、副会長四名、委員長若干名、副委員長若干名、委員若干名、会計監査二名、会計二名、以上役員及び委員の任期は二年とする。但し再任することができる。

（現行条文）

第五条　法政大学第一高等学校現職校長を名誉会長とする。会長、副会長は委員において推薦する。

委員長は各学年毎の会員より選出する。会計は委員の中から互選し、会計監査は会員の中から選出する。

（改定条文）

第五条　法政大学第一高等学校現職校長を名誉会長とする。会長、副会長は委員において推薦する。

委員長、副委員長は役員会の推薦により委員の承認を得て会長が委嘱する。委員は各学年毎の会員より選出する。会計は委員の中から互選し会計監査は会員の中から選出する。

ロ　会費徴収制度の導入

（現行条文）

第九条　本会の経費は正会員の納入する会費及び寄附金によって運営する。

（改定条文）

第九条　本会の運営費及び事業費は正会員加入時の入会費及び年会費並びに寄附金にて運営する。入会金額、及び年会費額は細則によって定める。

○改定理由

五十二年六月の十三年振りの再建同窓会開催以后、同窓会運営については充実、強化を図ってまいり、事業計画の確立により遂次、その基礎をかためてまいりました。

しかし乍ら事業の拡充にあたってはその財源は現在正会員になるとき（卒業の時）納入される入会金のみによって運営されています。

今后更に事業の拡充運営を図ってまいるうえから、この財源をより広く既卒業生の正会員から納入方のご協力をお願いいたし財政面の抜本的改正を図ってその基盤を確立していきたいと考えます。その運用にあたっては現在卒業時の入会金二、〇〇〇円を卒業時に入会金一、〇〇〇円年会費一、〇〇〇円計二、〇〇〇円徴収する。既卒業生からは年会費一、〇〇〇円を毎年収受する。

同窓会内部規約（細則）の改定

内容

八組織の改定、広報委員会設置

二組　織

（現行条文）

略

（改定条文）

会長―副会長
- 総務委員長
- 財務委員長
- 名簿編纂委員長
- 広報委員長

○改定理由

同窓会報の発刊にあたっては、現状総務委員長のもとで推進しているが、その業務内容は非常に大きく、今后更に拡充強化を図るうえから独立した広報委員長のもとでその運営を図りたいと考えます。

二、宇、句の改定

三、役員の選出

（現行条文）　各委員長、各副委員長……役員会の推薦により委員（代表委員）の承認を得て会長これを委嘱する。

（改定条文）

同窓会規約に明記したので「削

94才お元気な土居先生

除」する。

第二議案

「昭和五十四年度事業計画について」

積田名簿編纂副委員長より提案説明があり左記（別掲参照）の通り満場一致で可決承認された。

一、同窓会名簿の作成・発刊について

待望の同窓会々員名簿がいよいよ発刊される事になりました。若干期日は遅れてはいるものの、より充実完備したものを作成する為ですので会員各位のご協力をお願い致します。

一、名簿作成のスケジュール

A原稿〆切　54年6月24日

B印刷完了　54年12月末日

C名簿各自宛発送　55年1月（現状若干遅延）

D名簿予約申込金

代金　一冊二、二〇〇円（郵送料込）

E申込受付　総会当日及び〒182調布市調布ヶ丘二―二三―五

松崎和夫　TEL〇四二四（87）七二四二

二、同窓会規約・細則の改定

第一議案にて承認可決されましたので早速実行させていただきます。

三、同窓会々報の充実

五十二年十月創刊致しました同窓会々報は五十三年三月第二号、同年十一月第三号、五十四年五月第四号を発刊し、同窓会の皆様と母校を結ぶ唯一の情報機関として、ご利用していただいて居ります。

しかし乍ら未だ同窓会員相互の連絡や母校の情報等内容が不充分の点反省して居ります。今后母校の情報については座談会形式を定期的に開催する事によって充実化させていきたいと思って居ります。

同期会、クラス会等の開催状況や、編集へのご希望等、その他何んでも原稿を募集致して居りますので皆様のご協力をお願い致します。

四、同窓会と母校との連携・交流の強化、並びに母校諸行事に対する協力

同窓会は母校の発展を願い、母校は卒業生（同窓生）が相互に親睦を図って、お互が助け合って互助の実をあげていくことを願っている。このことから同窓会と母校との連携を強化して、相互の意志の交流を図り実のあるものにして行きます。

イ　母校との連携、交流

a、卒業式、文化祭等への積極的な参加

b、同窓会と母校との定期的な座談会の開催（春秋二回実施、テーマはその都度決定）

c、同窓会と在校生の代表との座談会（毎年二月に実施）

ロ、母校の諸行事に対する協力

a、卒業生に対して卒業同窓生名簿の配布並びに記念告の贈呈　品

b、体育、文化関係の諸団体、諸行事に対して賛助、並びに褒賞、祝金等の贈呈を行う。

フレーフレー法政神林リーダー

第三議案

「役員の選出について」

大木財務委員長より提案説明があり、左記の通り満場一致で承認された。

○内容

会長　副会長については「委員において推薦する」ことになっているが、今般会長、副会長を選出するに当り、選考委員会で審議し委員会の推薦により、次の方を推薦する。

会長　倉沢豊丸（再任）

副会長　中村雅明（再任）

〃　野村光一（再任）

〃　育藤英雄（再任）

〃　大木　興（新任）

（井沢前副会長は相談役となる）

以上をもって議事終了し議長団降段。

昭和54年度同窓会総会収支決算書

法政大学第一高等学校同窓会

収入の部	円	支出の部	円
会員券売上高	2,780,000	懇親会費	1,817,970
556枚×5,000円	46	会議費	209,720
祝金　9件	146,000	通信費・印刷費	12,905
広告料　6件	60,000	雑費	111,430
		一般会計繰入	833,975
合計	2,986,000	合計	2,986,000

昭和54年6月24日

総会準備委員長　野村光一

会計担当　桜井　勇

総会終了にあたって

準備委員長　野村光一

過搬行なわれました6月24日(日)の昭和54年度同窓会総会は、皆様ご承知の通りお天気にも恵まれ大盛況のうちに終了することが出来、ご同慶の至りでございます。

かえりみれば、約一年間総会準備のため総会準備プロジェクト委員会のもとに、その準備を進め、並々ならぬ、ご尽力とご協力をいただきましたことをこの席をお借りし、厚く御礼申しあげます。

細かい反省事項は多々あろうと思いますが大局的には何の問題も不平不満もなく盛況裡に終りましたことは、執行部全員が団結して調和協調の精神でことに当ったことにあると思います。

この総会を終り、本日、反省委員会を終りますれば、総会に関する事項は一切終り、私を始めプロジェクト委員の方々も自動的に解任となりますが既に2年後に行なわれる総会のことについて思いがいたされるのであります。

総会が終りましてから感じていることが3点ございます。

私ごとで恐縮ですがご被露したいと思います。

その第一は、昨年9月成田山新勝寺へお詣りにいき、同窓会総会が成功裡に出来ますよう祈ってまいりまして帰りに「おまもり」を載いてまいりました。この「おまもり」を肌身離さず持っておりまして、「念ずれば通ず」と云う信念となり、それが同窓会総会が成功裡に終ることが出来たのであると考えております。そこで9月には時間をさいてお礼詣りにいてまいるつもりでおります。

第二は、総会が終りホットし、個人的に数人の役員の方々と一杯やっているとき、ある一人の役員の方が言ったのであります。

「準備の中場で、参加人員が少なかったので、その時点でこの分では一〇〇万円位は個人で負担をしなければならないかと覚悟していた」

もう一人の役員の方は

「そうなんです。私も役員で分担し、一人一〇万円位は出さなければいけないかなと思っていた」という発言がありました。

これを聞いた私は、準備委員長として私が責任者であるのに、そこまで考えていてくれたことが非常に嬉しく思い心の中で本当に感激したのであります。

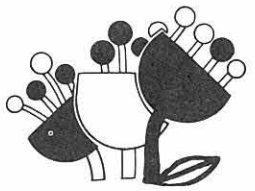
第三は、総会が終ってある役員から手紙が来ました。「準備委員長、永い間、本当にご苦労様でした。大盛況であり、これもひとえに委員長の人徳のしからしめるところであります」と書いてありました。

これを読んで心の底から嬉しく思いました。

以上のことがらについては、現在の執行部役員の結束の一断面をものがたるものであり、これが同窓会運営をスムーズに行うことが出来る源であると考えたからあえて、ご被露申しあげた訳であります。

最後に執行部役員の皆様方の絶大なるご尽力とクラス委員、並びに一般会員の方々のご協力に対し重ねてお礼申しあげ昭和54年総会終了のしめくくりの言葉といたします。

浩之、31・6中村功、橋本晶、31・7角川信一、妻木聡、32・1大島貴雄、重坂謙、32・2仙田晃、前田昇、32・3野尻浩一郎、増田久一、32・4井上昌哉、宿谷均、32・5久保栄介、吉川賢二、32・6野口明雄、吉田基樹、32・7清水秀郎、和田正浩



54年度同窓会新役員決まる

会長
倉沢豊丸（中1昭16卒）

副会長
中村雅明（中1昭16卒）
大木　興（中1昭16卒）
（名簿編纂担当）
（財務担当）
野村光一（商7昭21卒）
（総務担当）
斉藤英雄（商7昭21卒）
（広報担当）

名誉会長
馬場昌平（現校長）

顧問
佐藤康二（中1昭16卒）
林　英男（商1昭16卒）
松本一磨（商1昭16卒）

相談役
寺本隆雄（現一高教諭）
西田　実（商3昭17・12卒）
井沢雄蔵（中7・8昭21卒）

理事
正木信一（中1昭和16卒）
明石信夫（中2昭17卒）
福島　明（商2昭16・12卒）
菅佐原博（商5昭20卒）

参与
上田三代治（商2昭16・12卒）
西沢稜威雄（商3昭17・12卒）
大城　豊（中5昭20卒）
宮野　優（商7昭21卒）
田沢重昭（中7・8昭21卒）
寺沼啓二郎（高8昭31卒）
上条武彦（高9昭32卒）
杉村勝弘（高12昭35卒）

会計監査
小池靖夫（中4昭19卒）
前田賢文（中5昭20卒）

事務局
万代治郎（法政一高）
日向野道子（法政一高）

会計
万代治郎（兼）（法政一高）

総務委員長
山田舜一郎（高3昭26卒）

総務副委員長
加藤喜一郎（商6昭20卒）
土橋　淳宏（高6昭29卒）
神林　厚秀（高15昭38卒）

財務委員長
山口栄一郎（中4昭19卒）

財務副委員長
桜井　勇（商7昭21卒）

名簿編纂委員長
松崎　和夫（商8昭23卒）

名簿編纂副委員長
積田　見孝（中7・8昭21卒）

広報委員長
岩村　元雄（高8昭31卒）

広報副委員長
初田　稔（高8昭31卒）
佐藤　貴志（高22昭45卒）
安田　泰敏（高23昭46卒）

学年代表委員
中学　大木　興（中1期）
八田　安江（中2期）
山口　国満（中3期）
小池　靖夫（中4期）
大島　芳昭（中5期）
森　健（中6期）
積田　見孝（中7・8期）
商業　松本　節也（中9期）
松本　一磨（商1期）
上田三代治（商2期）
西沢稜威雄（商3期）
吉田　和男（商4期）
菅佐原　博（商5期）
加藤喜一郎（商6期）
桜井　勇（商7期）
松崎　和夫（商8期）

高校
上山　碩（高1期）
石川　誠（高2期）
山田舜一郎（高3期）
山本　秀夫（高4期）
秋口　正徳（高5期）
土橋　淳宏（高6期）
河合　顕二（高7期）
岩村　元雄（高8期）
上条　武彦（高9期）
沖江　俊一（高10期）
井手上豊介（高11期）
杉村　勝弘（高12期）
石田　耕造（高13期）
御子神天雄（高14期）
神林　厚秀（高15期）
古山　功（高16期）
田代　博泰（高17期）
小川　正久（高18期）
専光　英夫（高19期）
松下　直樹（高20期）
角田　等（高21期）
佐藤　貴志（高22期）
安田　泰敏（高23期）
小島　勝（高24期）
根岸　昇（高25期）
田中　一彦（高26期）
中川　明弘（高27期）
江口　輝章（高27期）
佐久間雄治（高28期）
菱沼　省二（高29期）
北岡　正剛（高30期）
星　嘉一（高31期）

組委員、数字は卒業期及び組
（中学）1・1倉沢豊丸、1・2三浦一郎、1・3堀田泰助、2・1宮本義純、2・2横山隆一、2・3室谷恭二、3・1松岡秀雄、3・2山口国満、4・1清水昭二郎、4・2田中卓也、4・3宮条正雄、4・4武野友幸、5・1大島芳昭、5・2外山武、5・3米本和夫、6・1野中慶三、6・4山口利昭、7・8・1田沢重昭、7・8・2井上泰賢、7・8・3積田見孝、7・8・4松本悌治、9・1松本節也
（商業）1・1松本一磨、1・2柴山猛、1・3柴田富雄、2・1田中耕作、2・2上田三代治、3・1西田実、3・2西沢稜威雄、3・3島崎慶太郎、4・1吉田和男、4・2中井川正、4・3中川和男、5・1菅佐原博、5・2越田邦夫、5・3前田育宏、6・1片岡秋夫、6・2川中政治、6・3加藤喜一郎、7・1森田健三郎、7・2北島七郎、7・3桜井勇、8・1松崎和夫
（高校）1・1片庭伸一、1・2片岡秀之、2・1鈴木啓介、2・2吉森繁喜、2・3石川誠、2・4中村貞夫、3・1吉田尚弘、3・2奥野照、3・3山田舜一郎、3・4福島光男、3・5増田一郎、4・1吉岡靖晃、4・2星野恒雄、4・3山本秀夫、4・5大川勝久、5・1佐川周司、5・2折原傭介、5・3源辺仁、5・5松本睦郎、6・1筒井裕康、6・2水上恒夫、6・3水谷満、6・4吉田勝治、7・1吉田源一義、7・2石井惣治、7・3浜田昌宏、7・4河合顕二、7・5山田富蔵、7・6渡辺一郎、8・1常深一成、今井進男、8・2早川弘一、8・3初田稔、8・4若橋保男、8・5谷宮雄一、8・6福島久雄、9・1梅木喬、9・2須田延雄、9・3吉川安司、9・4上条武彦、9・5川城宜工門、9・4新井幸雄、10・1内藤悦孝、10・2原田潤、10・3沖江俊一、10・5佐々木守国、10・6東条忠彰、10・7石川明、11・1佐久川元、11・2加藤重紀、11・3宮瀬睦夫、11・4井手上豊介、11・5今泉正、11・6星野久夫、11・7三輪正義、12・1坂村雄介、12・2大川満、12・3小堀昭夫、12・4諏訪天男、12・5相沢勇夫、12・6杉村勝弘、12・7川島平次、13・2石田耕造、14・1吉野純夫、14・5喜多信博、14・7御子神天雄、15・1高橋雄次、15・2田中芳男、15・3新栄総一郎、15・4新井英晴、15・5宮地卓夫、15・6斉藤純一、16・1本荘正美、16・2田中芳夫、16・3伊藤卓美、16・4岩上紘、16・5榛星東太郎、16・7古山功、17・1中島敏一、17・2黒田正信、17・3村木茂、17・4横川三喜雄、17・5田辺勉、17・6田代博泰、18・1柏谷俊一、18・2又木克彦、18・5小川正久、18・6金川寛、19・1小林真、19・2鳥海利一、19・3専光英夫、19・4佐久間勉、19・5渡辺省吾、19・6渡部善治、20・2高橋進、20・3松下直樹、20・4新井貞吉、20・5池田隆吉、20・6戸井田経一、20・7小番君晴、21・2花俣延博、真仲順、21・3小川昭二、山田利夫、21・4角田等、21・5高麗威二、鳥越幸太郎、21・6大藤昭、落合泰裕、21・8中山隆嗣、22・1佐藤貴志、22・2金山一信、22・3藤岡豊、22・4井梅泰雄、22・6大貫賢弘、23・1鳥越正敏、23・2吉富泉、23・3石井俊憲、23・4野崎芳彦、23・6大村竜敬、23・7安田泰敏、23・8久保慎一、24・1小島勝、24・2丸山弘孝、24・3寺岡敏夫、24・4江森和夫、24・5井手浩、24・6大久保清志、24・7江口厚行、24・8長沢昭、24・9川名健雄、25・1根岸昇、25・2近藤充宏、25・3山本義之、25・4大熊徳明、25・5渡辺芳郎、25・6桜井義則、25・7加藤一幸、林秀和、25・8大貫昭彦、清水正文、26・1戸恒昌樹、26・2乙津佳仁、26・3矢ヶ崎顕、26・4田中庸貴、26・5小林喜仁、26・6田中一彦、26・7斉藤精士、26・8佐野修一、27・1水橋桂司、27・2高橋誠、荻原久之、27・3田口心、27・4江口輝章、27・5平田陽一、27・6謝花寛行、27・7大木正、27・8浜田充、28・1佐久間雄治、小泉智嗣、28・2金井浩、白石武士、28・3谷口通彦、筒井哲夫、28・4岸本潔、小安光宏、28・5関塚正樹、両角宗明、28・6内野正利、須崎賢一、28・7田出伸一、根岸明生、29・1菱沼省二、深井誠、29・2大竹裕司、岡村修、29・3坂場達也、篠秀明、29・4石井一、高橋肇、高橋洋文、29・5臼井隆司、中村実、29・6大谷毅、羽村真、29・7高橋淳、竹内康雅、30・1伊藤三朗、富田祐司、30・2平一成、30・3津田慎司、西岡治、30・4種田淳、富士枝朗、30・5白石等、30・6小野田秀樹、正田耕一、30・7高沢尚行、野崎満、31・1星嘉一、門脇岳志、31・2石原謙二、谷政幸、31・3小須田智明、塩田毅、31・4唐鎌直彦、安孫子尚文、31・5岸忠夫、高田

（五面下段に続く）

自由と進歩

一組　城所淳司

我が法政一高に入学して、早三年。校舎の雰囲気が陰気だとか、教室全体がゴミ箱同然だとかけちをつけながらも、慣れとは恐ろしいもので、日増しにそれらが当たり前のように思えてくる。そして、卒業という一大イベントを控え、様々な思い出が浮かんで来る。ろくに理解できない授業を平然と、まして得意気にする先生の憎々しい顔。試験当日の早朝に期待をかけ、寝過してしまい、そのまま試験に臨む時の興奮。吐気を催すような体操着の超悪臭、等々。嫌だったこと、辛かったことにも、愛執と懐しみを感じる今日この頃である。

ところで、三年間を振り返ってみて、強く印象に残っている言葉がある。法政大学と共に、本校の校風である「自由と進歩」という名句だ。この言葉は、まさに本校の特色や性質を、ズバリ表わしている。でも、僕に言わせれば、自由が良い面を生み出すことによって生徒が進歩する傍、悪い面、はっきり言えばだらけた、責任感のない傾向をも生み出しているような気がしてならない。

そこで、僕が良い面と悪い面の両極面を生み出したと考える、自由の意味を調べてみた。土居健郎氏の著書『「甘え」の構造』によると「自由という言葉は、元来は中国語であるが、わが国でも古くから使われているようである。その意味するところは、自由気ままといういい方が暗示するように、甘えの願望とかなり密接な関係にあると見える点が興味深い。すなわちわが国で従来自由と言えば、甘える自由、すなわちわがままを意味したと考えられる。…中略…西洋的な自由の観念、これは歴史的に見て、古代ギリシャの自由人と奴隷の区別に発しているようである。すなわち自由とはもともと奴隷のように強制的に従わされることがないということを意味するものであって、であればこそ西洋では、自由が人間の権利とか尊厳などの観念と結びつき、よいもの望ましいものとなったのであろう。」とある。つまり日本ではわがままを、西洋では強制や束縛からの解放を意味するものらしい。

この二つの意味を、本校の自由の精神にあてはめてみよう。きつい受験勉強や、服装頭髪などについての細かい校則に縛られず、積極的でのびのびとしていて、広い視野を持った人間を育てることを目標として、学校側では「自由」という言葉を校風に用いているのだろう。実際に、大部分の人は受験勉強は不要で、また私服制服どちらでも自由など縛られない点が多い。そのためか授業も和やかで緊張感はあまりなく、クラブ活動なども活発のようだ。この意味での自由は、強制束縛からの解放を指すものだから、望ましくまた誇っていい。でも単にそれだけだろうか。僕はそうは思はない。自由だから何でも自分勝手にやっていい、他人の迷惑など気にしないといっただらけた退廃的な雰囲気が、一部にあると思う。

例をあげると、まず委員会の出席状況だ。自分が一年生の時になった某委員会は、本来なら四十二名いるはずのところが七、八名しか集まらなかった。これでは一学年の委員の数にも満たない。最近はこの状況も大部緩和されてきているようだが、まだまだ委員会の力を十分発揮していないように感じる。

次に冒頭にもあげた教室の散らかし様汚れ様、これはビカイチである。三角牛乳やピープル、パンの袋などが教室のあちこちに散らばり、風が吹くと、靴から出る土埃とそれらが相俟って落葉ならぬゴミの旋風を作る。加えて誰かが吐いた唾が、床の汚れに一層拍車を掛ける。皆が慣れてしまえば、誰が散らかそうとかまわないじゃないかといえばそれまでだ。でも外へ行って通用するとは限らないし、きれいなところにいる方が気分的にいい。それから三年の文化祭に対する態度も気になるところだ。参加自由だから参加しようとしまいと勝手であるけれども、参加しようとする組があまりにも少ない。二学期には試験が多くて勉強で忙しいといったところが原因だろうが、むしろ高校生活最後の文化祭を素晴らしいものにしようというのが本筋ではないだろうか。現実に受験勉強で忙しい都立校で、文化祭をやるところはいくらでもあるのだから。

いくつか例をあげてみたが、これ以外にも僕が三年生の時、二、三の悪質な事件が起こって、持物その他について新しい校則が作られた。これなどは、まぎれもなく退廃的な雰囲気が漂っている証拠であり、自由の幅が狭まったことは自由を伝統する学校としては、恥じるべきことだ。こういった傾向の自由はわがまま、自分勝手を指すものだから、決して望むべきものでも誇れるものでもない。それにこれから大学・会社といった社会集団に加わる僕らにとって、わがままは一層自粛しなければならないし、まして数々の責任や義務を背負うことになるだろう。退廃的雰囲気は、学校はもとより、その傾向が社会で通用しないから生徒にとっても大いにマイナスになるのだ。三年間を振り返って、自由が良い面と同時に、悪い風潮をも生み出してしまったように感じ、とても残念に思うのが、「自由と進歩」に対する僕の今の印象だ。

ごてごてと批判めいたことを並べてしまったが、べつに学校を嫌っているわけじゃない。何にでも利点と欠点はあるものだし、今では縛られないのびのびとした高校生活を送れたことが大変嬉しい。自由な学校だからこそ学び取ることができる何かを得たいような気がする。短い期間ではあったが、もう戻ってこない大切な青春の三ページである。これからの人生、どんな苦難障害にぶつかるとも限らないが、そんな時には高校時代の

母校だより

「法政一高三年三組」

望月　敦

高校にはいって三年間、きまり文句のようだが、実にはやかった。中学の時この学校と都立とどちらにしようかと迷ってたころがなつかしい。都立にはいれば、大学受験、しかし男女共学、それに比べ、法政は受験はなく、男子だけの学校、すごく迷ってとうとうこの学校に入学、けど都立じゃなくて本当によかったと思う。それもこの三組の生徒になったからだったと思う。三組、吉川先生という比較的法政一高の中では若い先生が担任別に先生がおもしろいっていうのではない。このクラスの生徒が、サイコーに楽しい奴ばっかだったのである。

団結力についてはピカ一であったといってもホームルームでの討論などはほとんどなく、もっぱら私語のための時間だったが、遊びについての団結力はすばらしかった。

ある数学の先生を三組は、親のかたきのごとく強く攻撃し、またその先生も、三組をめたくたにいじめてたみたいだ。

貴重な存在といえば、僕にとっては、政経の先生は、忘れられない。口は悪かったけど、生徒に対する思いやりはとってもあったと思う。あの先生の最後の授業での話、とってもよかった。今になってみれば、とくに、にくたらしい先生なんていうのは、いない。全ての先生が、どこかぬけててにくめない感じがする。こんなことをいったらおこられるかもしれないけれど、ずいぶんのんびりとした先生が多かった気がする。そこにまたこの法政一高のよさが、あったのかもしれない。

友に、「男子校の三年間よくあきずにいれたなあー、かえって楽しかったくらいだ。」といった奴がいた。でもこれが男女共学だったら、皆、かっこつけちゃってなんにもおもしろくなかったと思う。男子だけの中だからこそ、皆地のままにいてバカなことをやれたんだと思う。

「三組の中でも、いろぉなグループがあった。」いつもふざけあってて、みてるだけでおかしい奴ら、一見おとなしそうだが影で何をやっているかわからない奴ら、いつもトランプばっかやってるひまな奴ら、なんにもしゃべらない奴ら、いつも一人で孤独な奴、ロックの事となると目を輝やかせる奴らとにかく、それぞれいろんな奴が、いた。頭はよく、顔、姿もよく、あの熱中あの若さを思い出し、きっと励まされることだろう。

終わりに、二度と戻ってこない大切な瞬間を悔いのないよう、そして自分の若さに誇りを持って高校及活を送るよう後輩に望みたい。

スポーツはなんでもこなして、やることなすこと、おもしろい奴がいると思えば、スポーツ、勉強、顔、姿全てダメな奴もいた。

クラブで汗を流す奴がいれば、吉祥寺で汗を流す奴もいた。

学校もあと数える程しか行くことがなくなったこの頃、もうあの楽しい奴らとも、会えなくなるのかと思うと淋しい。学校が終れば、それぞれバラバラになってしまうし、皆、住んでいるところも、いろいろあって、また、皆が集まるということも、そうめったには、ないだろう。

三組の中にはある程度いたが、僕のいたグループでは、少し、きついことをいっても本気でおこるような奴はいなく、皆いつもけなし合いつつ、楽しんでいた。

この三組の奴らとも、いつまでも、友達でいたい。卒業をしてしまえば、それで終りなんていう冷たいつき合いではなく、いつまでも、あの三年間の楽しい出来事を胸に、またいつかある人は学生として、またある人は浪人として、社会人として会えることを願っている。

一高生活の中で、忘れられないのは、あの数学の先生の「小学生でもできることを君らはできない」という口癖と、政経の先生の最後の話と、あとやはりこの三組の一員であったことだ。

卒業しても皆、それぞれの道を歩いて、がんばってほしい、そして、苦しい時には、また皆で集まって楽しくやろうではないか。

それじゃ皆、元気で……。

財務委員会より

「会員諸兄」年会費を送ろう!!

昭和五十四年度一般会費（年会費）の払込〆切が三月末日に迫って居ります。昭和五十四年度から同窓会会員諸兄に年千円の一般会費を払込んで頂くことが議決され、それが運営資金として会の運営に充てられることになったことは御存知の通りであります。そして昨年十二月末日で既に、二百八十六名の御払込を頂いて居ります。五十四年度分未納の会員の方は同封振込用紙にて早めにお払込下さい。又クラス委員の方はクラス会の際「会費に併せて」徴収され同窓会事務局宛、氏名表と共に御送金頂きたくお願い致します。

年会費納入者

昭和五十四年度年会費一、〇〇〇円納入された方は左記の通りです。（五十四年六月総会時迄に納入済の方、敬称略）

中学　大木興　正木信一　岡本経穹　米川昌彦　深沢次郎　野村謙三　高木薫　長倉正　小田勇　川村正夫　杉崎安一郎　明石信夫　室谷恭二　横山隆一　中野義晴　石原治　木村有明　鈴木幹人　高橋堅治　高橋政之　佐々木安統　笠井英世　池田健二　山口栄一郎　米沢郷之　村上与四郎　三輪健治　谷隆介　梅村重三郎　清水昭二郎　坂口昭三　吉田一則　藤間広一　谷口英一　土佐谷剛　田島鉄蔵　市川敏男　村上和一　沢田和夫　吉岡雅治　藤塚昭夫　外山武　前田賢文　積田見孝　井上泰賢　横山隆　山中昭　山口利昭　新井甫治　長谷川好三郎　上林英夫　大辻健三　松本倚治　久保庄吉　山口喜彦　内藤弘之　喜多聿蔵　石川章　横瀬和弥（旧姓照沼）水成進一　片岡秀之

商業　上田三代治　柴田富雄　清野檜三郎　黒須通夫　相良憲司　大島慶蔵　高橋復太郎　鈴木堅次　瀬戸清　小林敏夫　稲村保雄　尾本龍介　山口実　西沢稜威雄　田中耕作　斉藤一男　松林佑光　山口光雄　原太郎　浦川慶夫　千代田益之助　須藤美智男　原武志　島崎慶太郎　人見哲為　島村芳男　荒博　飯高克也　加藤文一郎　猪股常三　木邑芳雄　越田邦夫　新美四郎　林檜一　山口利一　管佐原博　川中政治　前田董治　森田健郎　桜井勇　田中雄一　中川文雄　高山英一　田中重幸　盛隆　藤野浩一　飯塚泰　斉藤英雄　松崎和夫　野村光一　神野金之助　高橋龍生　伊崎利雄　石田良夫

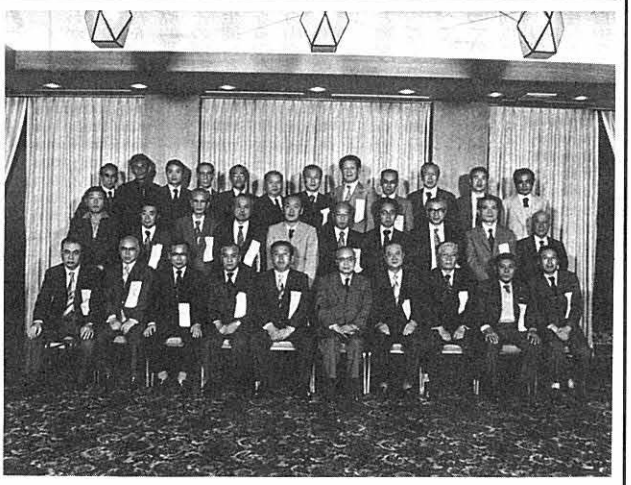
高校　宮本孝敬　丸山秀雄　中村貞夫　星祥一　目崎昇　中島康孝　清水幸一　石渡茂　中村允美　奥野照　平井一郎　出水久義　吉田尚弘　安藤秀夫　中山堯靖　喜多滋　秋元保　田中常稔　吉田武男　古浦芳雄　井口俊男　長岡三福　益田幸男　名川元章　杉浦和雄　土屋真　牧野光成　関弘忠　江成三男　田代泰夫　佐々木健寿　木元信昭　秋山長司　秋口政徳　折原庸介　柴崎昭二郎　斉木寿雄　渡辺仁　名古屋久一　松井敏家　横山正　長谷川浩平　天野欽也　森田史郎　鈴木基弘　辻村利彦　神谷泰彦　深沢豪彦　小野正明　向後昭一　近藤保英　佐藤俊男　永田鉄郎　小鷹俊彦　水谷満　河合顕二　戸野部誠一　安藤慶蔵　倉本倫　榊原信治　細貝義彦　天野鐵太郎　田中修　和気清　佐藤恒喜　持田幸男　市島隆　浜田昌良　石井愆治　田中武男　横田和義　寺本正弘　石川義規　黒沢善明　太田垣芳男　穂坂種夫　小野寺達雄　松崎幹男　橋本進　石田良一　吉岡源一郎　佐藤貞夫　岡部弥寿雄　若橋保男　初田稔　藤田貞三　岩村元雄　新井幸雄　向井宏之　土屋靖　荻野誠　田中政行　轟靖光　小野里昇　梅木喬　川城宮工門　川口雄二郎　黒田寿朗　曽我允彦　織部良一　加治一郎　吉川安司　東條忠彰　山田富蔵　関根秀昭　森山正毅　荻野正晴　加藤重紀　早瀬洵　平川勝凰　小林一博　鈴木克己　飯塚聖二　粕谷武史　井手上豊介　田中芳雄　杉村勝弘　川原鉄郎　斉藤純一　宮地卓夫　福宮優　高木省介　神林厚秀　河合勇治　新井英晴　栗原道元　下田洋征　照川義次　岩上紘　多小田一紀　井口宏　長谷部三郎　茂木崇志　服部希之　石黒伸一　棒星東太郎　中川喜徳　太平雅彰　佐藤貴志　安田泰敏　中沖栄二　大久保正二　高槻薫

昭和五十四年三月卒業生全員

以上六月二十四日総会当日会費を納入された方を記載致しました。

その后法政一高事務局の方へ振込みをされた方は次号会報に記載致します。尚未だ未納の方は同封振込用紙にて早急にお振込をお願い致します。尚五十五年四月一日以降は五十五年度となりますので五十四年未納の方は併せて二、〇〇〇円、五十四年納入済の方は一、〇〇〇円、年会費納入方よろしくお願い申し上げます。

中学一期会開催



中学一期会　高橋長太郎先生を囲んで

一月二十六日新宿歌舞伎町のサントリーバーで中学一期会を開催する。恩師野島先生をお迎えし、参加三十二名、世話役の中村(雅)君の開会挨拶、野島先生の乾杯の音頭、田口君が、閉会の言葉を述べて結び、その間に全員がこもごも近況報告をしたり、久し振りの旧友との語らいにしばし時の移るのを忘れた楽しい一夜であった。今回は会場設営に佐藤康二君のご支援があり、又中学四期の山口(英)君が手伝うなどあって盛会であった。ちなみに参加者全員のお名前を述して置く。野島先生、一組―石原倉沢小林佐藤瀬川安田安村、二組―石川(英)岡本奥田小田大木斉藤鈴木曽村高木中村(雅)長倉楢原野村米川綿引、三組―相沢秋田水津杉崎田口堀田吉井渡辺、中学四期山口。の諸兄。（大木記）。

高橋長太郎先生を囲んで

―商業一・二・三期合同―

現在の法政一高の前身、法政商業の創設期は、法政中学校と一諸に市ケ谷富士見町の大学内に設立され、生徒数もわずか三八〇名と少人数で、上級生、下級の別なく、その融和は深く、さながら兄弟同様の親しい風情が見られた。このような多感な少年時代に、校舎を外濠に映した美しい環境のもとで、我等一、二、三期生は、若き日の高橋長太郎先生の教えを受けたことが、人間形成に大きな影響をもたらし、今日、社会の第一線で活躍できる原動力となっていると云っても過言ではない。

その後、先生は、東京商科大学、現在の一ツ橋大学で経済学の泰斗として活躍され、只今は専修大学の学長として、21世紀を支える若者の育成に努力されているが、今般、先生を囲んで、卒業以来、四〇年近くの日時を経て、初の試みである、商業一、二、三期の合同クラス会を、昭和54年10月25日に日比谷公園内〝松本楼〟で開催し、秋の夕べを歓談いたしました。

出席者　高橋長太郎先生

「一期生」小泉隆次、伊藤欅一、石塚守信、清野檜三郎、相良憲司、関口信男、竹平知一、川村正夫、松本一磨、柴田富雄、古橋整吉、田中耕作、林泰一郎、藤井秀、佐藤利夫

「三期生」阿部仁治、石川茂、石黒元次郎、上野秀守、小島一浩、木村次郎、高見信吉、増田潤次、人見哲為、鈴木理正、須藤美智男、西田実、西澤稜威雄、